

## 佐賀県公立学校教頭会

挨拶

会長 千北 昌子

2020年1月に国内で新型コロナウイルス感染症の感染が確認されて以来、学校は様々な対応に追われました。また、私たち、佐賀県公立学校教頭会も未知のウイルスへの対応に追われ中にも、子どもたちが安心安全に、学びを止めることなく学校生活を送るために、関係機関や家庭、地域と連携し、知恵を出し合いながら教育活動を行ってきました。令和5年5月8日から感染症法の位置づけが5類になり、4年ぶりに地域の行事やイベントが行われるなど、街に、学校に活気が少しずつ戻ってきています。学校では、報告などの事務的な仕事は少なくなり、ほっとした一面もありますが、暑くてもマスクを外せない児童生徒も多く見られるなど、コロナ禍が子どもたちに与えた影響は、今後も続くのではないかと感じています。また、行事など見直してきた教育活動についても、コロナ前に戻すのではなく、より効率的に教育効果をあげる内容や方法を検討していく必要があると思います。

コロナ後の対応だけでもいくつかの課題がありますが、学校には、解決に向けて努力していくべき、多くの課題があります。急速な環境の変化と、膨大な情報、多種多様な価値観があふれる予測不可能な社会の中で、私たちは子どもたちに、たくましく生きぬくための力を身に付けさせなければなりません。学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善はもちろんのこと、GIGAスクール・ICT利活用の推進、SDGsの理念を意識した教育活動の推進、いじめや不登校など子どもたちを取り巻く問題への対応、不測の事態に対応できる危機管理体制の構築、そして、働き方改革と教職員の人材育成など、教育課題の改善・充実に向けて、これまで以上に教職員の組織化を図り、学校全体の力量を向上させることが必要です。副校長・教頭としては、学校内外と連携しながら、教職員の指導力を向上させる技量を高め、努力していくことが求められています。

このように、副校長・教頭へ課せられる課題と期待は膨らむばかりですが、まずは、私たちが、教頭会という組織を通じて繋がっていくことで、課題解決の方法が見えてくるのではないかと思います。教頭会では、今年度も11月に研究大会を実施し、全国や九州地区研究大会にも参加して研修の推進を図り、職務遂行に役立つ情報を提供しながら、副校長・教頭としての資質向上をめざしていきます。会員の先生方が悩みや不安を気軽に相談しながらつながりを深め、共に協働し、「人・こと・もの」をうまく繋いでいくことで、課題解決に向かっていくことができると考えます。会長として、微力ながら精一杯務めて参ります。皆様のご支援とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。